

渡船のある街

ユニバーサルスタジオが人気です。大阪駅で桜島行きの JRに乗ると、ユニバーサルスタジオ前を過ぎれば乗客はまばら。終点の桜島駅で降りると、駅前には商店もありません。自転車置き場と高速道路。それも海を越えるためにずいぶん高い空中にあります。対岸には天保山の海遊館が見えますが、賑わいとはまったく無縁。此花区の工場街です。そんな場所に、大阪市営の天保山渡船があります。

大阪市内には渡船が8カ所残り、15艘の船が動いています。すべて大阪市建設局直営。大正時代からだそうです。道路と同じ扱いですから、運賃は無料。ただし、船内に座席はありません。道路と同じく、自転車を持ち込むことができます。自転車通学の高校生や、買い物に行く主婦が当たり前に使っています。朝夕は工場への通勤にも使われているのでしょうか。ダイヤは1時間に2〜4本程度。生活の場の渡船です。

大阪の港湾部は淀川のデルタ地帯。そこに何本もの川が流れています。安治川、木津川、尻無川などです。それらの川が水運に利用され、工場や倉庫が建ち並んだのが大阪の港湾部。一帯には橋が少なく、あったとしても水面からずいぶん高い場所に架橋されます。人と自転車はその橋を渡ることができず、渡船を利用するわけです。

川幅は狭いところで100m、広いところでも500mほどだと思えます。泳げば渡ること

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲高速道路下の天保山渡船

ができる程度の川幅に10人ほどしか乗れない小さな船がS字型やU字型の航路を描きます。

市内の渡船を順番に利用すると、結果的には大阪の工業地帯を歩くことになります。金属のリサイクル工場、鉄鋼メーカー、機械メーカー、物流倉庫などがほとんどで、商業施設はありません。したがって、バスの便もよくありません。殺風景な眺めとも言えます。しかし、昔工場だったと思われる場所にマンションができていたり、宅配便の物流センターができていたりします。工場街が虫食い状態になっています。昔であれば、鉄工所、木工所をもっと見ることができたのでしょうか。心なしか、リサイクル工場が増えているようにも感じます。工場地帯の地味な眺めのなかに、時代の変化を感じます。渡船の時刻を気にしながらの、楽しい散歩でした。

(MBO実践支援センター代表)